

Injury Alert (傷害速報)類似事例

ブルーレイディスクケースの誤嚥による声門下異物 (No. 74 ビーズ型芳香消臭脱臭剤の誤嚥による気道異物の類似事例 2))

事 例	年齢：1歳5か月 性別：男児 体重：7.5kg 身長：80cm	
傷害の種類	誤嚥	
原因対象物	ブルーレイディスクケースの一部 (図1)	
臨床診断名	声門下異物	
医 療 費	2,654,168円	
発生状況	発生場所	自宅
	周囲の人・状況	家族の目の前・団欒中
	発生年月・時刻	2019年12月X日(日) 午後7時頃
	発生時の詳しい様子 と経緯	ブルーレイディスクは普段キャビネットに保管していた。2019年12月X日午後7時頃、保管していたキャビネットが開けられ、患児がブルーレイケースをかじっているのを父親が発見した。本児が咳嗽し始めたこと、ケースの一部が破損しているのに父親が気付いたことから、患児の口腔内にケースの一部があるのではないかと考え、父親が手で児の口の中から取り出そうとしたが、触感では異物をかえって押し込んでしまった印象とのことであった。医療機関Aを受診したが、咳も落ち着いており、口腔内視診を行い異常なしと判断されて帰宅した。帰宅途中から喘鳴が出現し、症状持続したため、X+1日午前8時半すぎに医療機関Bを受診した。受診時、SpO ₂ 低下はないものの、頻呼吸や陥没呼吸、呼吸音減弱、顔色不良を認めた。クループと考えアドレナリン吸入を行ったが症状改善せず、上気道狭窄による呼吸不全と判断し、気管挿管する方針になった。挿管中、声門下で抵抗があり、ようやく2.5mmカフなしチューブを挿管することができた(同日午前9時20分頃)。挿管に伴いSpO ₂ 低下(70%台まで)がみられたが一時的で、徐脈の出現もみられなかった。しかし、気管挿管後も70cmH ₂ O以上の陽圧がないと胸部挙上せず換気に難渋した。頸部から胸部にかけてのCT検査を行い、気管チューブ直下に気道異物を認めた(図2)。同日午前10時半すぎに、気管切開による気道異物除去のため、高次医療機関へ搬送された。

治療経過と予後

X+1 日午後 2 時すぎから緊急気管切開術、声門下異物除去術が施行された。気管カニューレ挿入し、小児集中治療室にて術後全身管理を行った。X+3 日に人工呼吸器を離脱した。X+4 日に気管カニューレ抜去を行ったが、呼吸障害の出現はみられなかった。術後は喉頭ファイバースコープにて定期的に気道狭窄の評価が行われ、一時的に声門下に白苔と軽度浮腫を認めたのみで、その他の気道狭窄所見は認めなかった。気管切開孔は自然閉鎖するのを待つ方針になった。発症 2 か月の時点で後遺症は認めていない。

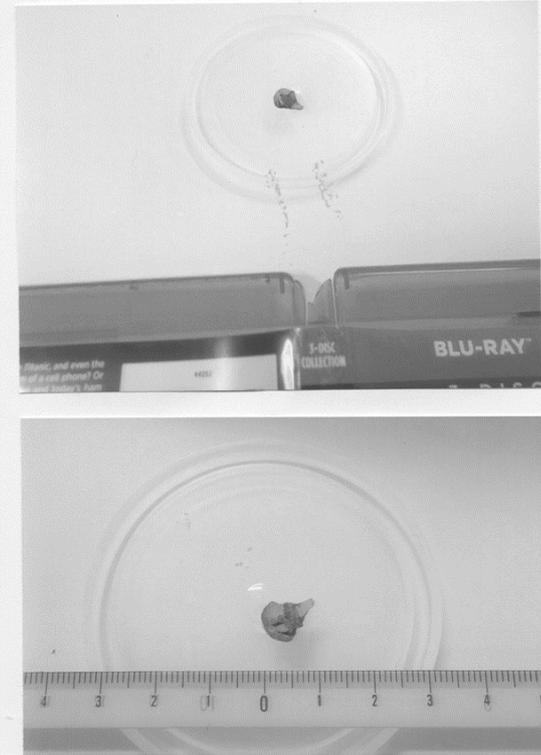


図 1. ブルーレイディスクケースと摘出された気管支異物

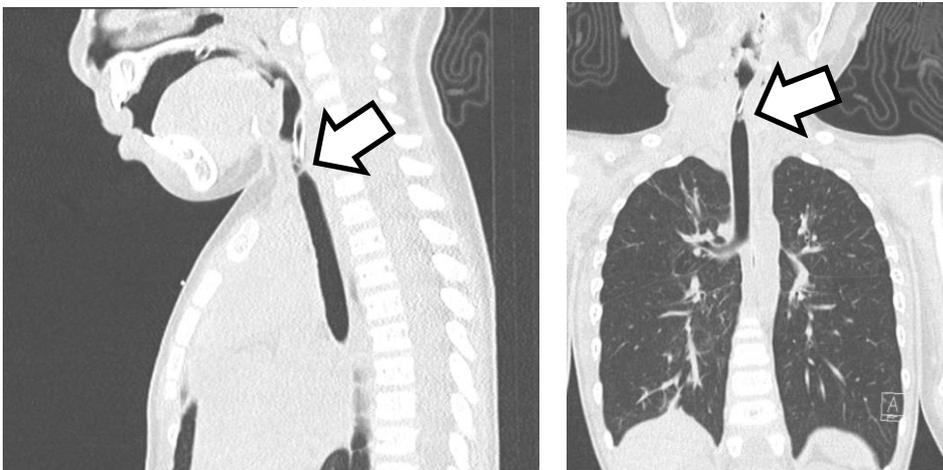


図 2. 【頸部 CT】気管チューブ直下に気道異物（↑）を認める